

のぞましい家庭教育のしおり

思いやりの心を感じた体験 ～思いやりの芽生え～

満員電車に乗ったある日、高齢者に「よかったらどうぞ」とやさしい口調で語りかけ、席を譲る高校生がいました。突然の雨の中、傘を持っていない友達に「僕の折りたたみ傘、貸すよ」と、笑顔で傘を差し出す小学生がいました。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられた今、人と人との触れ合いが日常生活に戻り、その中で相手を思う行動を見るたびに心が温かくなります。

思えば、コロナ禍の数年間には人と人が触れ合うことが難しい状況でした。だからこそ、人を思うことの大切さを感じた体験がありました。それは、今年99歳になる私の祖母からの一本の電話でした。離れた田舎に一人で暮らす祖母とは、コロナ禍ということで顔を合わせることはできませんでした。それでも、私の娘の進学の際には、必ずお祝いを贈ってくれました。祖母にお礼の品を贈ってしばらくしたある日、「元気にしとるか。ばあちゃんは元気だよ。家族みんなで仲よく過ごしてね。」と、電話の向こうから変わらぬ元気な声が聞こえてきました。数十秒の会話でしたが、言葉では説明できないうれしさを感じました。直接会えなくても、言葉で相手に思いを伝える祖母の姿に心が温まりました。

2020年4月、入学した子どもたちを待っていたのは休校、分散登校という今まで経験したことのない日々でした。分散登校初日、一人の子どもからある提案がありました。しばらく会えない仲間と、ホワイトボードを使ってメッセージのやりとりをしたいというものでした。その日の帰り、ホワイトボードには「しばらく会えないけれど、心は一つだよ。会えるのを楽しみにしています」と、心温まるメッセージが書き込まれました。そこから分散登校が終わるまで、心温まるメッセージのやりとりは続きました。こうして、それぞれの思いを伝える一枚のホワイトボードが、まだ顔も名前も覚えていない仲間のつながりをつくっていきました。直接会うことはできないけれど、相手を思う気持ちがこうした行動を生み出したのだと思います。子どもたちから人を思うことの大切さを教えてもらいました。

思いやりにはさまざまな形があると思います。大切なのは、その形ではなく、そこに含まれている人の心や行動だと思います。思いを伝えきれていない人はいませんか。ぜひ、この機会に思いを伝えてみてはいかがでしょうか。きっと、思いやりの第一歩を踏み出すことになるでしょう。



一人で悩まないで、まず相談を

・刈谷市 **子ども相談センター** ～子どもに関する相談の総合的な窓口～

月～土曜：9時～17時(国民の祝日・年末年始を除く)

☎：62-6313 電話相談・来室相談

・刈谷市 **青少年電話相談** ☎：23-8888 月～金曜 9時～17時

・県教育相談 **こころの電話** ☎：052-261-9671 10時～22時

